



都城市市民意識調査結果

ふれあいアンケートの結果

市では、市民の意見を市政に反映させるため、7月に「ふれあいアンケート」を実施しました。今回は、20歳から80歳までの約12万3,000人の市民の中から無作為に選んだ4,000人を対象に、都城市の住み心地や運動と健康、環境、自治公民館、まちづくり協議会、防災意識、インターネットショップ、市職員の接客態度、選挙、市議会、市政への要望について調査を行いました。

回答者は1,518人で、回答率38%でした。詳細な結果は、市のホームページに掲載しています。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

◇男女別

性別	回答者	比率
男性	626人	41.2%
女性	876人	57.7%
無回答	16人	1.1%

◇年代別

年代	回答者	比率
20代	70人	4.6%
30代	185人	12.2%
40代	185人	12.2%
50代	301人	19.8%
60代	416人	27.4%
70歳以上	348人	22.9%
無回答	13人	0.9%

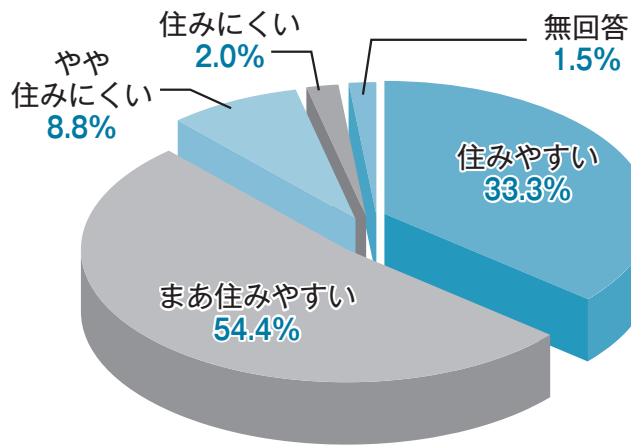
◇地区別

地区	回答者	比率
姫城	125人	8.2%
小松原	80人	5.3%
妻ヶ丘	184人	12.1%
祝吉	155人	10.2%
五十市	158人	10.4%
横市	112人	7.4%
沖水	126人	8.3%
志和池	67人	4.4%
庄内	66人	4.4%
西岳	29人	1.9%
中郷	80人	5.3%
山之口	53人	3.5%
高城	99人	6.5%
山田	85人	5.6%
高崎	75人	4.9%
無回答	24人	1.6%



◎解説
住み心地については、87・7割の人が、都城市は「住みやすい」「まあ住みやすい」と感じていて、前年度の調査より0・7ポイント低くなっています。

年代別にみると、「住みやすい」「まあ住みやすい」と答えた人は、60歳代の91・1割が最も多く、逆に最も少ないのは50歳代の83・4割でした。

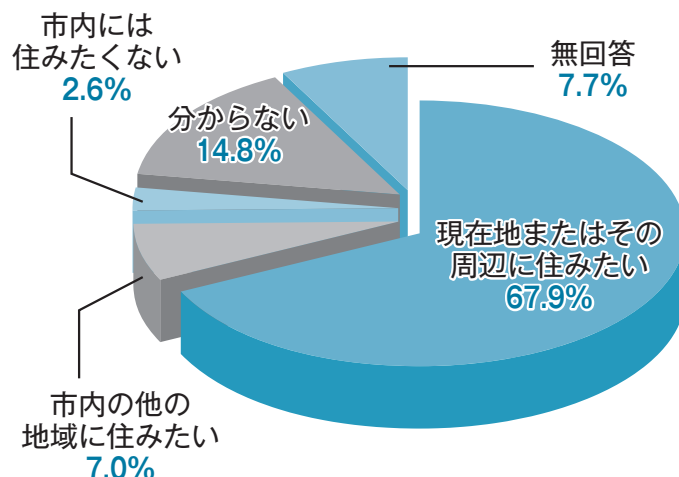


Q 今の都城市の住み心地をどう感じていますか？

住み心地

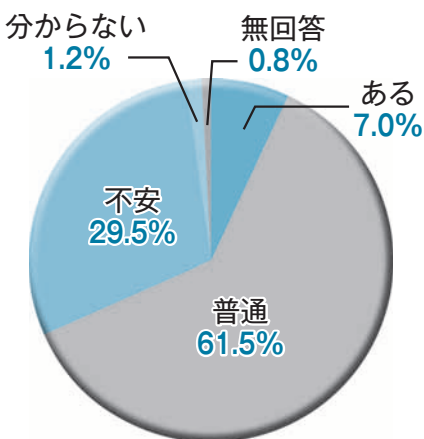
地区別にみると、「住みやすい」「まあ住みやすい」と感じている地区の上位は、小松原(92・6割)、祝吉(92・3割)、横市(92割)となっています。

逆に、「住みにくい」「やや住みにくい」と感じている地区は、山之口(22・7割)、高崎(17・4割)、志和池(14・9割)で高くなっています。

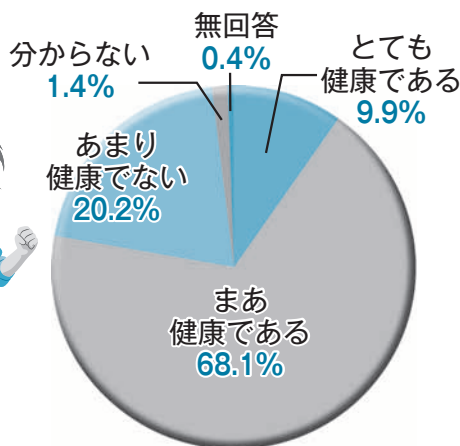


Q これからも都城市に住み続けたいですか？

運動と健康

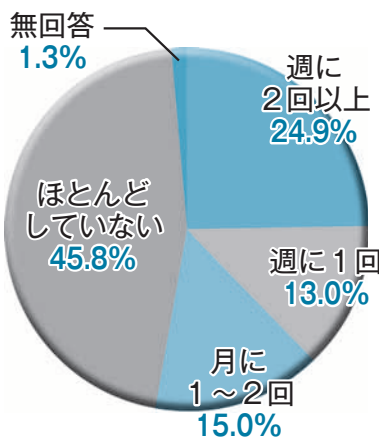


Q 体力に自信がありますか？



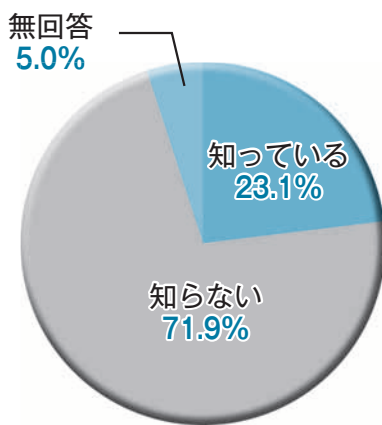
Q あなたは健康ですか？

◎解説
自分が「健康」「まあ健康」と答えた人は78割で、逆に「あまり健康でない」と答えた人は20・2割となっています。また、体力に「自信がある」「普通」と答えた人は68・5割で、逆に「不安」と答えた人は29・5割となっています。過去1年間のスポーツや運動の状況は、「週に1回」が13割、「週に2回以上」が24・9割となっていて、本市が推進している「みんながスポーツ1130県民運動」は、週一回以上の実施率50割以上を目標にしていますが、今回の調査では37・9割となっています。

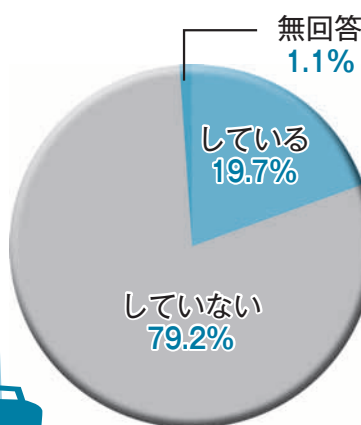


Q スポーツや運動を、過去1年間にどれくらいしましたか？

防災意識

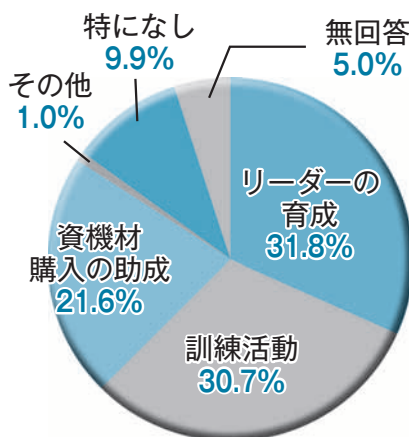


Q 住民が互いに協力して地域の安全を守る「自主防災組織」を知っていますか？



Q 災害に備え防災用品を準備していますか？

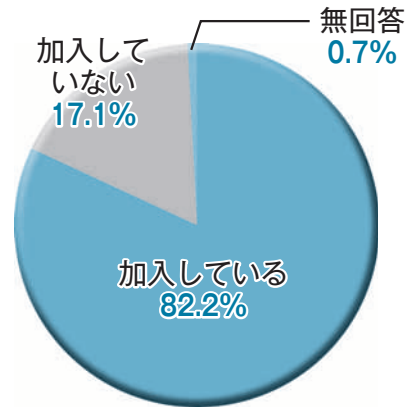
◎解説
防災用品の備蓄について「準備している」と答えた人は19・7割、「準備していない」と答えた人は79・2割となっています。また、地域の安全を守る自主防災組織について「知っている」と答えた人は23・1割、逆に「知らない」と答えた人は71・9割となっています。市が行う自主防災組織への支援として力を入れてほしいことについては、「リーダーの育成」と答えた人が31・8割と最も高く、「訓練活動」「資機材購入の助成」が続いています。



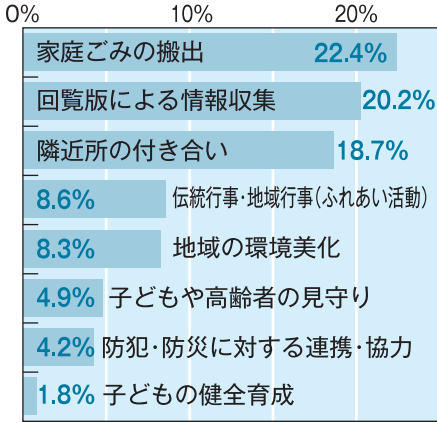
Q 市が行う自主防災組織への支援として、今後一層力を入れてほしいことは何ですか？（複数回答可）

自治公民館

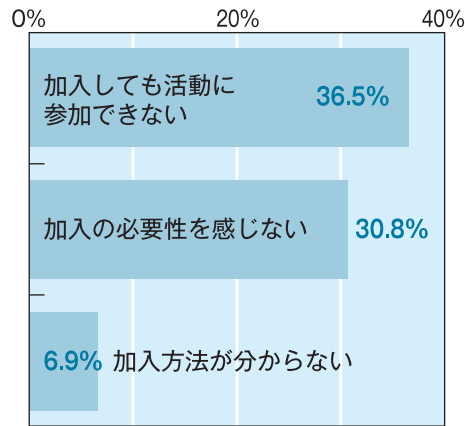
Q 自治公民館に加入していますか？



Q 加入して、特に良いと思うことは何ですか？
(複数回答可 上位8位まで)



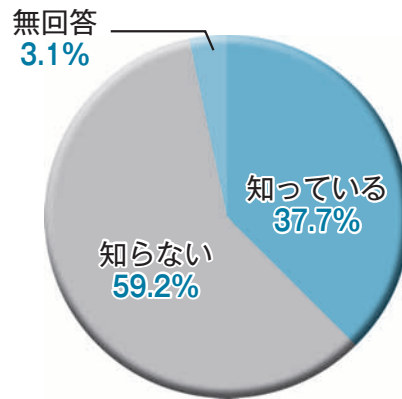
Q 自治公民館に加入していない理由は何ですか？



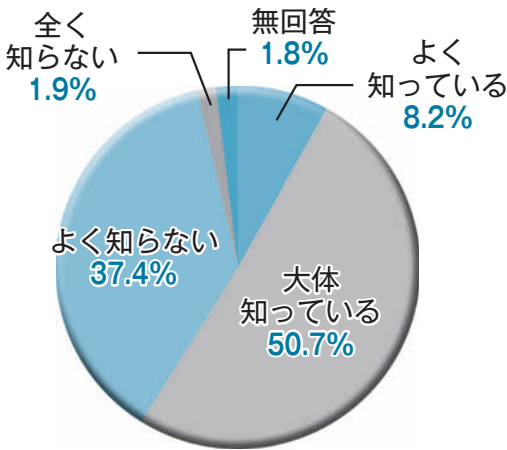
◎解説

アンケートの結果、自治公民館には82・2割の人が加入していて、そのメリットは「家庭ごみの搬出」22・4割、「回覧版による情報収集」20・2割、「隣近所の付き合い」18・7割、「伝統行事・地域行事(ふれあい活動)」8・6割、「地域の環境美化」8・3割となっています。また、加入していない理由は、「加入しても活動に参加できない」36・5割、「加入の必要性を感じない」30・8割、「加入方法が分からない」6・9割となっています。

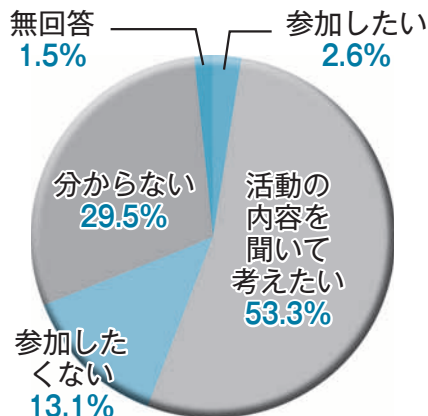
Q まちづくり協議会(まち協)を知っていますか？



Q まち協の活動内容を知っていますか？
(対象者:まち協を知っている回答者)

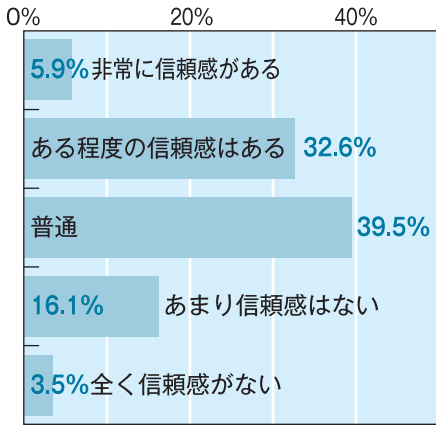


Q 今後、まち協の活動に参加したいですか？
(対象者:まち協を知らない回答者)

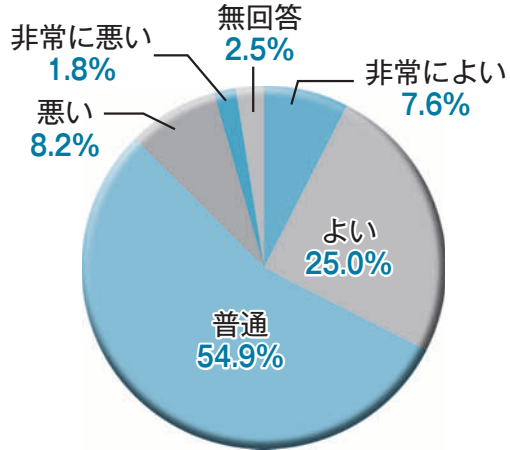


◎解説

まち協は、市が推進する「協働のまちづくり」で、地域内分権の受皿となる住民自治組織です。まち協を「知っている」と答えた人は37・7割(未設立地区を除くと42・9割)となっています。まち協を「知っている」と答えた人のうち、活動内容を「よく知っている」「大体知っている」と答えた人は58・9割となっています。また、まち協を「知らない」と答えた人59・2割のうち、「活動に参加したい」「内容を聞いて考えたい」と答えた人は55・9割となっています。



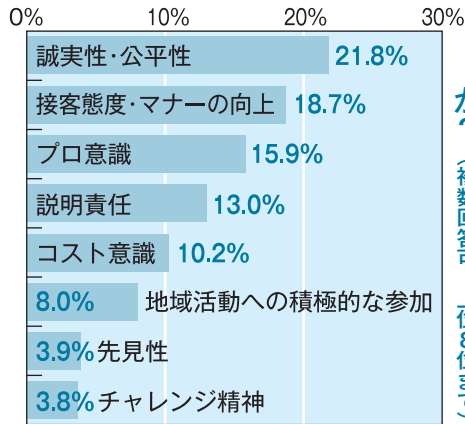
Q 市職員に対して、信頼感
はありますか？



Q 市職員の接客態度について、どのような印象を持っていますか？

市職員の接客態度など

解説
市職員の接客態度について、「非常によい」「よい」「普通」と答えた人は、87・5割となっています。逆に「悪い」「非常に悪い」と答えた人は、10割となっています。また、市職員に対しての信頼感について、「非常にある」「ある程度ある」「普通」と答えた人は78割で、逆に「あまりない」「全くない」と答えた人は、19・6割となっています。今後、より市民の皆さんに信頼されるよう接遇の向上に努め、職員の意識改革を進めていきます。

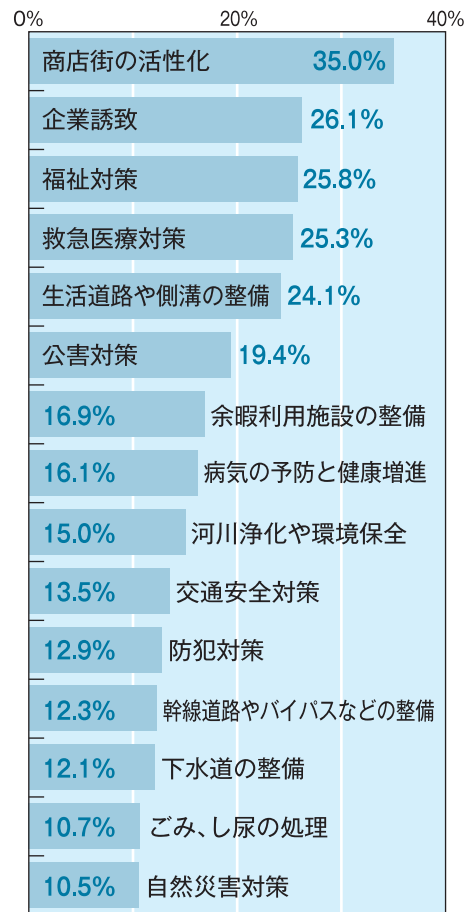


Q 市職員に対して、どのようなことを期待しますか？
(複数回答可 上位8位まで)

解説
昨年度の調査結果と比較すると、引き続き「商店街の活性化」が1位、「企業誘致」が2位となっています。昨年度3位の「生活道路や側溝の整備」は、5位へ後退。一方で、昨年度5位の「福祉対策」は3位となっています。昨年度と比較して順位が上昇した主な項目は、「公害対策」が9位から6位へ、「ごみ、し尿の処理」が23位から14位へ、「小・中学校の施設整備」が25位から19位へとなっています。

性別で見ると、男性・女性の1位が「商店街の活性化」、男性の2位は「企業誘致」、3位は「生活道路や側溝の整備」となり、女性の2位は「救急医療対策」、3位は「福祉対策」となっています。年代別で見ると、全ての年代で「商店街の活性化」が1位となっています。

地区別で見ると、姫城・小松原・妻ヶ丘・祝吉・五十市・横市・庄内・山之口・高崎地区で「商店街の活性化」、志和池・西岳地区で「生活道路や側溝の整備」、中郷・高城地区で「福祉対策」、沖水地区で「企業誘致」、山田地区で「公害対策」が1位となっています。



Q あなたが特に力を入れてほしいと思うことは？
(複数回答 上位15位)

市政への要望

魅力発見！霧島ジオパーク



霧島ジオパーク
イメージ
キャラクター
「キリッチ」

ジオパークとは地質学的に見て、貴重な地質遺産が多数存在する自然公園です。霧島山麓周辺の5市1町（都城市・高原町・小林市・えびの市・霧島市・曾於市）では、連携して世界ジオパーク認定へ向けた取り組みを推進しています。今回は、霧島ジオパーク内にある本市のジオサイトを紹介します。 ◎問い合わせ 商業観光課 ☎23-2615

ジオパークとは

ジオパークとは、地質学的に見て貴重な地層、岩石、地形、火山、断層などを見所とする自然公園のことで、「地質版の世界遺産」とも言われています。

ジオパークは、ユネスコが支援する「世界ジオパークネットワーク」が進めている活動で、保護・研究、教育的活用と学習、体験型観光などを通じて地域資源を地域の活性化につなげることを目指しています。

世界ジオパークと日本ジオパーク

ジオパークには、世界ジオパークと、その国内版となる日本ジオパークがあります。それぞれのジオパークとなるためには、ジオパークとしてふさわしい活動を行っているか審査を受け、認められる必要があります。

世界ジオパークは、平成25年12月現在で世界29カ国100地域あり、うち国内では6地域が認定されています。また、日本ジオパークは世界ジオパークの6地域を含めて32地域が認定されています。

日本ジオパークに認定された霧島

霧島山は、雲仙・瀬戸内海とともに日本初の国立公園に指定され

日本ジオパーク認定までの経緯

平成20年10月14日	霧島ジオパーク推進連絡協議会設立
平成21年1月1日	霧島市に事務局設置
平成22年4月26日	日本ジオパーク認定申請
5月23日	公開プレゼン審査
8月17・18日	現地審査
9月14日	日本ジオパーク認定

た雄大な景観、20余りの多様な火山と火口湖、1,300種にも及ぶ植物、神話と伝説を持ち、古くから信仰の対象となった山々です。これらの豊かな資源を活用し、地域振興に生かすことを目的として、平成20年10月、霧島ジオパーク推進連絡協議会が設立され、世界ジオパークの認定に向けた活動が開始されました。そして、霧島山一帯は、平成22年9月14日に日本ジオパークに認定。市ではこれらの資源を地域の活性化に生かしていくとともに、関係市町と一体となって、世界ジオパークの認定に向けた取り組みを進めています。



都城市のジオサイト

ジオパークの見所をジオサイトといいます。霧島山一帯には日本ジオパークの認定を受けたジオサイトが44カ所あり、うち4カ所が本市にあります。ぜひ一度体験してください！

● 関之尾滝 (関之尾町)

霧島山の裾野より湧き出る清流がその先端で大滝となり、轟音とともにしぶきをあげて流れ落ちます。昭和33年に県立自然公園に、平成2年には日本の滝100選にも選ばれました。幅約40m、高さ約18mから水しぶきをほとばしらせながら落ちる姿は圧巻です。



● 関之尾の甌穴群

流水が小石や岩石の破片を回転させ、長い年月をかけ川床を削ってきた大小のくぼみが甌穴です。甌穴群は滝の上流に位置し、その規模は世界有数で、昭和3年に国の天然記念物に指定されています。滝から上流600m、最大幅80mにも達し、その形成は現在も進行しています。

御池 (夏尾町)

本市と高原町にまたがる直径約1kmの火口湖で、霧島山では最大、最深の湖です。湖岸には御池野鳥の森やキャンプ場などがあり、野外活動の拠点となっています。



小池 (御池町)

小池は御池の西にある直径約450mの火口湖で、ほぼ垂直に切り立った高さ約100mの火口壁があります。御池野鳥の森と併せて観察路が整備されています。



ごろが轟 (高野町)

火山の噴火による火砕流が堆積した岩盤が、川の流れて浸食されてできた滝です。全長は40mで、千足川本流が洗濯板のような岩盤上を滑るように流下します。



トピックス

関之尾むかえびとの会

関之尾滝の観光ガイドを目的に、平成21年に設立されたボランティアグループ。年中無休で活動しています。



【滝の案内】

- 申込人数 3人以上
- 料金 無料
- 申込期限 1週間前まで
- 紙芝居(出張)
- 申込人数 10人以上
- ガイド交通費 1組 2,000円より

- 申込期限 1週間前まで

● 内容 ①お雪さん物語(関之尾に伝わる恋物語) ②坂元源兵衛物語(前田用水路がテーマ。水を求めて闘い続けた不屈の物語) など



◎ 問い合わせ

滝の駅せきのお
☎ 37-3405